長岡景観情報紙 第5号

変わるまちと景観

市民の熱い思いから生まれ変わっていく そんな前進する長岡の景観を特集します

~操車場跡地が生まれ変わった次世代防災拠点~

長岡市民防災公園

中越大震災をきっかけ に整備された「防災公園」 は、見事な景観を形成し ています。



大震災の際には、仮設住宅が建っていました。

私たち世代が異なる3人の編集 員が、「変わるまちと景観」をテーマに、ホットな景観にスポットをあて、取材しました。



市民編集員のみなさん

緑花センターには、市民が育てた様々な花があり、 心癒されます!





私たちの日々の生活を守ってくれます。 感謝I

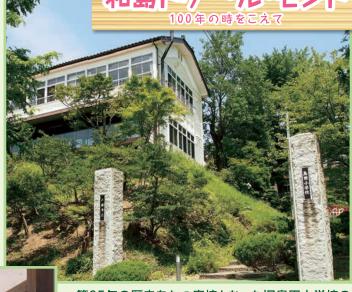
ちびっこたちが、広〜い建物の中で、のびのび過ご しています。

編集員の内田です。色々な人たちと話すこと、 文章を書くことが好きな自分にぴったりだと思い、 今回、編集員に応募しました。

32歳の僕が、表紙の長岡市民防災公園と、このページを紹介しています!!



レストラン『Bague (バーグ)』では、自 然の空気と、おいし い食べ物で幸せ、り 気持ちになってよせ も心も満腹にさせ てくれます!!



~思い出が詰まった廃校を再生~

30/1

築85年の歴史をもつ廃校となった旧島田小学校の校舎をレストランやギャラリーなどの複合施設として再利用。障害のある方の就労支援事業でもあり、地域活性化の拠点となっています。



旧校舎の夜景は幻想的。昼は、山々に囲まれた 景色も必見!



古き良き時代にタイムスリップしたいあなたに オススメ!

旧校舎がレストランとして復活。 工夫次第で建物の可能性が広が ることを実感しました。





緑に囲まれた牧場。アルパカがお待ちかね。

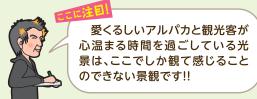
中越大震災後、以前の活気を取り戻すため、平成21年に、アメリカ・コロラド州在住の方から贈られたアルパカを育てている牧場です。日本では珍しかったアルパカが山古志で注目されている点がユニーク!



かわいいアルパカ看板が、ぼくらを迎え入れてくれます。



アルパカ牧場でみんなの元気な笑顔に出会えて、とって もうれしいな♥





取材を終えてい

普段なかなか経験することのできない編集や取材の楽しさを肌で感じることができて、とても充実した時間を過ごすことができました。 (編集員 内田傑)





編集員の小出です。栃尾の山間 部で生まれました。山登りが好き なので、普段は山や草花の写真を 撮っています。

62歳の私が、このページを紹 介します。



~東へ西へ想いを運ぶ未来への架け橋~

ニュータウンブリッジ構想から、40年近 い歳月と、多くの人々の熱意が実り、ようや く完成が見えてきたフェニックス大橋。こ の橋の完成で東西交流のさらなる活性化 が期待されます。

フェニックス大橋越しに見る花火もまた美しいです。今後、長岡 花火の新スポットになるでしょう。遠くに長生橋が見えます。

信濃川と渋海川を一気にまたぐ フェニックス大橋は、ダイナミック な景観を形成する長岡のシンボル となるでしょう。



完成間近の橋下写真。東西をつなぐ力強さを 感じます。



完成間近の橋上写真。このタイミングならで はの爽快な景色を紹介します。

~兼続・お船の想いを花で結ぶ通り~

与板·天地人通り

長岡~与板~寺泊を結んだ長岡鉄道の跡地が「天地人 通り」として整備されました。南の兼続門から北のお船門 まで続く約1.5kmの快適な遊歩道になっています。

休憩所やトイレも整 備され、足元をLED 照明が幻想的に照ら します。

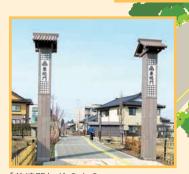


います。

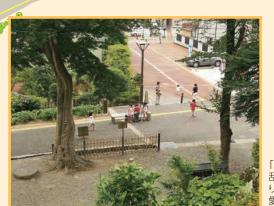


▮お船門」は、女性らしい丸みのある 門構えです。

花々に囲まれた通りを 歩くだけで、心が温かくな れる触れ合い景観が、そこ にあります。



「兼続門」。柱の上の 屋根が兜のように見 え、兼続の勇姿を連 想させます。



「愛」の文字を兜にかかげ、戦 乱の世を生き抜いた与板ゆか りの名将直江兼続と妻お船の 愛を表現した天地人通り。

取材を終えて・・・

良い景観は人の心を豊かにする、それはそこに関わった人々の想いが込められているからでしょう。 私もこの情報紙編集を通じて、景観を大切にすることを学びました。 (編集員 小出 陽一)



編集員の五十嵐です。82歳になりました。

字を書くこと、絵を描くことが、子どものころから好きです。現 役のころ、営業企画、会社誌などの分野で仕事をしました。こん な経験を活かしたいと思って応募しました。

このページは、私が紹介します!





街には、昔懐かしいネーミングの小路が多 くあり、歩く楽しみを与えてくれます。





城山の麓に形成されている雁木の街なみ は、次世代に残したい「景観」です。

~多世代で残す歴史的風景~

栃尾○雁木通

「雁木通り」は、栃尾の景観の代名詞となって います。私有地に私財で建築され、歩道に使わ れている雁木。住民と大学生との新しい雁木づ くりの取組も行われています。



豪雪の中でこそ効果を発揮し、人々の生 活を守っている雁木。

地域に残る雁木を、住民と学 生とのコラボレーションにより、 毎年1棟ずつリニューアルして います。



~復興への活力の結集~



中越大震災の震源地にほど近い川口運動公園内のゴルフ場跡 地に、平成23年、当時のクラブハウス施設を再活用した震災メモ リアル施設「川口きずな館」がオープンしました。地域内外から多

くの人々が集まり、 活動拠点となって います。



テラスから眺める山あり 谷ありの地形は絵になり ます。

周辺の見どころ!

きずな館の運営は、「NPO法人く らしサポート越後川口」が行ってい ます。このきずな館を中心とした地 域全体の魅力向上・活性化が期待 されます。



川口小・中学校の児童・生徒が感謝と復興のメッセー

運動公園内からは、越後三山が遠望で きます。

取材を終えてい

スタッフ一同、終始本気で熱心に仕事ができて、楽しく、勉強になりました。今まで、見たこともない景観に驚いたこともしばしばです。 特に、災害の悲惨さを見ると、改めて人間の絆の大切さを痛感しました。 (編集員 五十嵐栄作)

ジを記した「震央碑」

